

本郷次雄先生をしのんで

上川キノコの会会長 佐藤 清吉

本郷先生が来道したのは、確か昭和 62 年 9 月でしたでしょうか。講師として指導する北海道キノコの会の採集会が終わった後に、先生が上川に行きたがっているとお聞きし、宿をどこにしたらよいかと色々考え、高級ホテルにでもと思いましたが、結局層雲峡温泉の上川営林署の保養所にしました。上川町までおいでいただき、本当に光栄に思っている次第です。

その時は、本郷先生をはじめ、穴戸北海道キノコの会会長、五十嵐先生にもその保養所に泊まっていただきました。そこの泉質は層雲峡ーと言われていますがサービスは良くありません。泉質と宿泊代の安さが魅力と考え泊まっていただきました。

会食はイス席でしたが、二次会は畳部屋でした。乾燥標本をたくさん持ち込んで、先生に同定をしていただき、さらに先生が執筆した保育社の「原色日本新菌類図鑑」にサインをしていただいたのも、懐かしく思い出されます。たぶん先生のサイン本を持っているのは北海道では私一人ではないでしょうか。今となっては先生の直筆としてはこれしかないのです。

翌日はよく晴れ渡り、先生たちを私のホームグラウンドに案内いたしました。そこは大雪ダムが一番奥に位置する国道 273 号線の高架橋のすぐそばで、ヒグマもよく遊んでいる原生林です。そこには珍しいカラスマイタケ、

アミタケ（このアミタケはまだ名が付いていないよと本郷先生は話されていました）、テングタケ、ベニテングタケ、ニカワハリタケ、ツガノマンネンタケなどがありました。またトドマツの根元に、ドクヤマドリ（直径が 30 センチ位のおおきなもの）が 3 個ありました。柄の太さも 5～6 センチはあったと思います。

その後、本郷先生の口添えで、スイスのハインツ・クレマンソン先生にも上川まで来ていただきました。この時通訳していただいたのは美唄の村田義一先生でした。

本郷先生に上川を最良にさせていただいた事を本当に嬉しく思っています。しのぶ言葉にならないかも知れませんが、本郷先生のご冥福をお祈りいたします。